

施策分析シート（平成27年度）

No1

施策名	子どもの健全育成	施策No	04-10	部課名	教育委員会事務局指導室		
関連部課名		課長名	小山	内線	3380		
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
目的	地域と一体となって子どもの健全育成に努めるとともに、教育相談体制の充実・改善に努めることで、心豊かにたくましく生きる子どもの育成に資する。						
指	幸福実感指標名	指標の推移			指標に関する質問文		
		24年度	25年度	26年度			
	① 「生きる力」の習得度		3.55	3.55	お子さんが、社会で生活していく上で必要な知識や技能、社会性、体力などを身につけていると思いますか？		
	② 子どもの成長の実感		4.10	4.29	お子さんが健やかに成長していると感じますか？		
	③						
④							
標	施策の成果とする指標名	指標の推移				指標に関する説明	
		24年度	25年度	26年度	27年度 見込み		目標値 (28年度)
	① 小学校不登校発生率	0.33	0.35	0.43	0.43	0.19	該当数／児童数（％）
	② 中学校不登校発生率	2.98	2.97	3.54	3.54	2.15	該当数／生徒数（％）
	③ 学校復帰率	28.10	26.61	24.84	26.08	30.00	不登校の児童・生徒のうち復帰（再登校）した割合
	④						
⑤							
現状と課題（指標分析）	<p>児童・生徒が不登校に陥る要因として、本人自身によるもののほか、同級生や友人との人間関係、家庭内における家族関係も要因として考えられる。また、昨今では、「子どもの貧困」が社会問題化し、不登校に陥る要因が複雑化しているとともに、その要因の排除に当たり、22年度から新たにスクールソーシャルワーカー（SSW）を配置し、学校、家庭、関係機関等との連携を強化してきたが、その解決は困難な状況となっている。</p> <p>教育相談体制の充実に向けた事業展開により、不登校児童・生徒の学校への復帰（再登校）率については上昇に転じてきたところであるが、不登校の発生率については、微増傾向にあることから、今後も引き続き取組みを強化していく必要がある。</p>						
今後の方向性	<p>《今までの成果及び指標分析を踏まえて》</p> <p>教育相談体制の充実を図るためには、子どもに接する最前線の教員の資質・能力向上が欠かせない。新規採用等により経験年数の浅い教員が増えているため、教員研修の充実が課題である。SSWの導入により、心理・福祉両面からの支援を充実させる。</p>						

施策の分類		分類についての説明・意見等
27年度	28年度	
推進	推進	<p>多様化する子どもや保護者等の悩み・問題等の解決を図るため、学校派遣型の教育相談室の新たな体制づくりを核として、区内全体の教育相談体制の充実・改善を目指す。</p>

施策を構成する事務事業の分類						
事務事業名	事務事業 No	決算額（千円）		施策推進のための分類		分類についての説明・意見等
		25年度	26年度	27年度	28年度	
スクールカウンセラー配置事業	12-04-18	0	0	継続	継続	児童・生徒や保護者の指導・助言の充実改善を図りながら、いじめや不登校等の未然防止、改善及び解決に引き続き取り組んでいく。
適応指導教室運営	12-04-19	2,386	1,579	継続	継続	不登校の児童・生徒が学校への適応を図るための支援は重要な課題であり、引き続き取り組んでいく。
生活指導対策費	12-04-20	37	0	休止・完了	休止・完了	きめ細かい情報・行動連携に努める。生活指導連絡協議会賄いについて必要がなくなったため、予算計上はしない。
教育相談事務	12-04-38	45,175	48,365	重点的に推進	重点的に推進	多様化する子どもや保護者等の悩み・問題等の解決を図るため、相談体制の充実及び関係機関等の連携強化が必要であることから、事業を重点的に推進する。
合 計		47,598	49,944			